



東久留米の近代史シリーズ5

## 武蔵野鉄道東久留米駅 (7)

### 東久留米駅の発展・1

#### 武蔵野鉄道の新駅開業

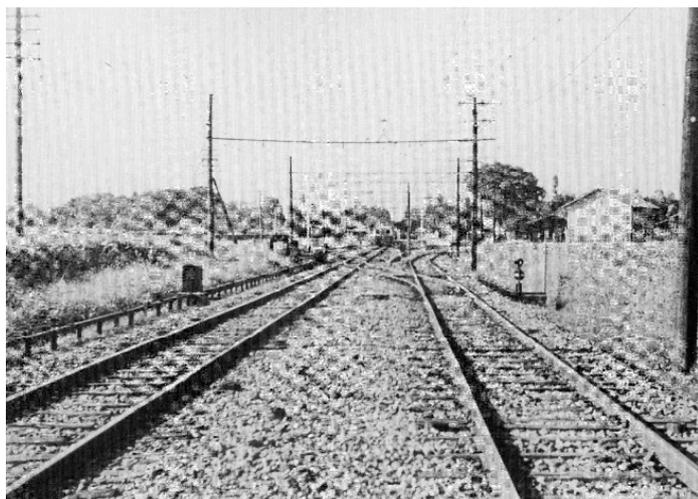
武蔵野鉄道開業時の駅（停車場）は、池袋＝東長崎＝練馬＝石神井＝保谷＝東久留米＝所沢＝小手指（現西所沢）＝元狭山（現狭山ヶ丘）＝豊岡町（現入間市）＝仏子＝飯能の12駅でした。その後、1917年（大正6年）から昭和初期にかけて次々と新しい駅が開設されていきました。秋津、黒須（貨物専用）、江古田、椎名町、中村橋、清瀬、田無町（現ひばりヶ丘）、東大泉（現大泉学園）、貫井（現富士見台）、武蔵藤沢、元加治です。特に1924年（大正13年）6月には同時に4駅が誕生しています。昭和に入ると、豊島園、上り屋敷、桜台も開業し、さらに1929年（昭和4年）9月には飯能～吾野間の営業を開始しました。

開業時の駅	新規開業の駅と開業年月日
●池袋	■上り屋敷・一九二九・五・二五 昭和四 ●廃止一九五三
●東長崎	■椎名町・一九二四・六・一一 大正二三
●練馬	■江古田・一九二二・一一・一一 大正一一 ■桜台・一九三六・七・二〇 昭和一一
●石神井	■中村橋・一九二四・六・一一 大正二三 ■貫井・一九二五・三・二五 大正一四 ▼富士見台・一九三三 ■練馬高野台・一九四四・二・二七 平成六
●保谷	■東大泉・一九二四・一一・一一 大正二三 ▼大泉学園・一九三三
●東久留米	■田無町・一九二四・六・一一 大正二三 ▼ひばりヶ丘・一九三三
●所沢	■清瀬・一九二四・六・一一 大正二三 ■秋津・一九一七・二・二二 大正六
●小手指	▼西所沢・一九一五・九 ■小手指・一九七〇・一一・二〇 昭和四五
●元狭山	▼三ヶ島村・一九一五・九 ▼狭山ヶ丘・一九三三 ■武蔵藤沢・一九二六・四・一一 大正二五 ■稲荷山公園・一九三三・四・一一 昭和八
●豊岡町	▼入間市・一九六七
●仏子	■元加治・一九二六・四・三 大正一五
●飯能	

こうして武蔵野鉄道は武蔵野の地を横断する便利な交通機関として人々に利用されましたが、あわせて貨物輸送の増加によって地域経済の発展に大きな影響を及ぼしました。東久留米駅の誕生を契機に久留米村も次第に変化をみせてゆきます。

### 武蔵野鉄道の電化と複線化

武蔵野鉄道は、私鉄としてはいち早く全線の電化に着手し、1922年（大正11年）11月1日に池袋～所沢間が首都圏の蒸気機関車利用の鉄道としては初めての電化を行い、電車と蒸気機関車の混合運転を始めました。翌年の同区間の列車本数は電化前と比較して倍以上となり、保谷止まりの区間運転も開始されました。さらに、3年後の1925年（大正14年）12月23日には所沢～飯能間が電車運転を開始し、大正年間に全線の電化が完



武蔵野鉄道の複線化 1953年（昭和28年）撮影

了しました。電化にあたっては当初はアメリカ製電車3両と国産木造電車12両が導入されました。武蔵野鉄道の複線化はなかなか進みませんでした。1928年（昭和3年）に池袋～練馬間、翌29年に練馬～保谷間の複線化が行われ、電化とも対応して運転本数も増加し、池袋～保谷間の区間運転にも貢献しました。

その後の複線化は難航し、1946年（昭和21年）に保谷～田無町間、1953年（昭和28年）に田無町～清瀬間、1959年（昭和34年）清瀬～秋津間、1960年（昭和35年）に清瀬～所沢間の複線化が実現し、運転を開始しました。



電化された武蔵野鉄道

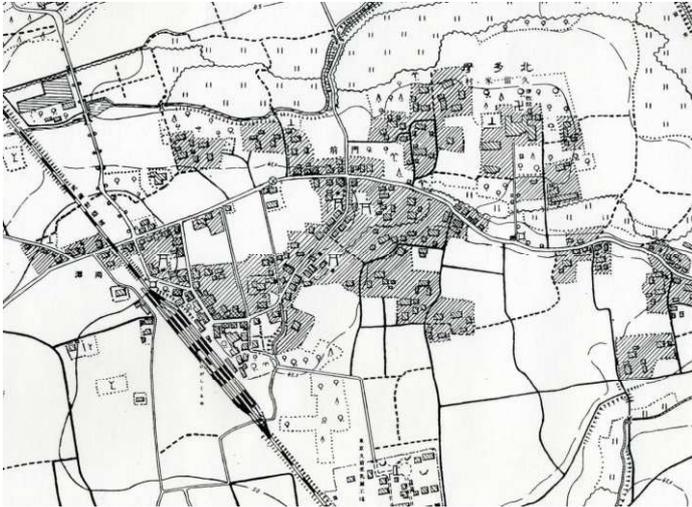
昭和10年代撮影

東久留米駅の隣の田無町駅（現ひばりヶ丘駅）における自由学園児童の通学風景。木造電車で、前面おでこのR形やヘッドライトの形状からモハ131形ではないかと思われます。撮影者・撮影年不明で古川武雄氏提供。

## 駅の整備と駅前の発展

大正4年の武蔵野鉄道と東久留米駅の開業当初は、畑の中に突然停車場が出現したような状態でしたが、周辺駅の開設が遅れたことや物資輸送の必要性から、駅とその周辺は次第に整備されていきました。

武蔵野鉄道は、昭和初期には客車の約3倍の112両の貨車を有し、特に物資輸送に力が入れられました。東

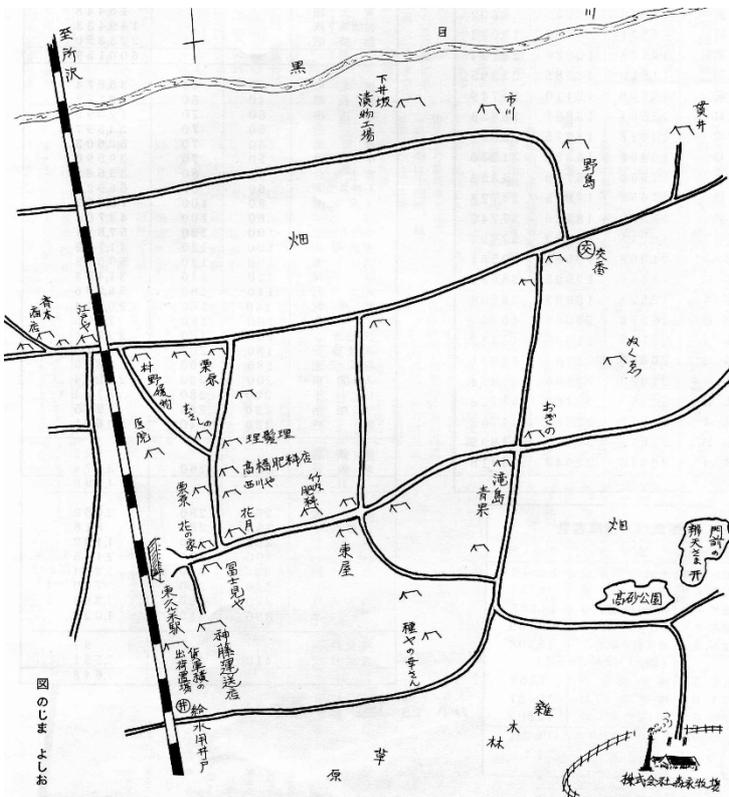


昭和10年代の東久留米駅とその周辺地図

この区間はまだ単線でしたが、駅には待避線や貨物の構内側線が整備され、地図にも4本の線路が描かれています。東側の2本が待避線と貨物専用側線、西側が糞尿輸送時に作られた側線と思われます。駅舎の東側には商店や民家が増えました。昭和18年9月空中写真測図「東久留米駅」3000分1・大日本帝国陸地測量部・都市計画東京地方委員会・国土地理院

久留米駅も待避線や貨物専用線の線路が敷設されています。また、1922年（大正11年）には東京市からの糞尿輸送も始まり、東久留米駅他5駅が引取り駅となったため1924年（大正13年）には東久留米駅構内西側に専用の積み下ろし所と側線が造られました。有蓋車による肥桶輸送で、1928年（昭和3年）まで続きました。

南沢北原（現在の東本町）の駅前には運送業やその倉庫、肥料屋、お茶屋、料理屋、下駄屋、理髪店などの商店が建ち、駅から浄牧院の門前にかけて、さらに踏切のある北側道路周辺にも家屋が増え、次第に駅前商店街を形作ってゆきました。門前には久留米村で初めての本格的な駐在所が1895年（明治28年）にでき、駅周辺は村の重要な地域へと変化しつつありました。



大正期末から昭和初期の駅周辺の様子

この駅周辺図は、門前在住の故野島愛雄氏が描いたものです。駅南側には石組みの貨車専用ホームがあり、荷物置き場がありました。広場前には神藤運送店の倉庫もあります。池袋側の線路と交差する細い道は現在ありませんが、糞尿輸送していた頃は、下ろし場に近いため下肥街道という別名があったそうです。久留米村の中心は、府中道（現小金井街道）や秩父道（現所沢街道）が通り、村役場もある前沢と考えられていましたが、駅周辺は次第に農産物や肥料などの商品の輸送拠点となり、商店も増えてきたことから、村の中心の二極化が進み始めました。図の南端の柵のある場所は1937年（昭和12年）にできた森永乳業特別牧場です。

文責・山崎 文

（東久留米市文化財保護審議会委員）

## 第36回 多摩郷土誌フェア

多摩地域の市町が一堂に会し、各自治体が刊行している郷土史や文化財・自然に関わる図書の展示・販売会「多摩郷土誌フェア」が開催されます。今年は、21市、1町の図書等が集まり、多摩地域の文化財に関わる図書が一度に購入できる機会となります。

開催日時：令和6年1月20日（土）午前10時～午後5時

開催日時：令和6年1月21日（日）午前10時～午後3時

開催場所：立川市女性総合センターアイム1階・ギャラリー  
（立川市曙町2-36-2）

アクセス：JR立川駅北口より徒歩約7分

多摩都市モノレール 立川北駅国営昭和記念公園方面出口から徒歩約5分  
※駐車場はありません。ご来場の際は公共交通機関か、近くの有料駐車場をご利用ください。

参加自治体：八王子市、立川市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、福生市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、羽村市、あきる野市、西東京市、瑞穂町（市政施行順）

主催：東京都市社会教育課長会文化財部会

事務局：八王子市生涯学習スポーツ部文化財課 電話 042-629-9896

お問合せ：郷土誌フェアについては、市郷土資料室（下記の連絡先）まで。

他市が刊行する図書については、各自治体にお問合せください。

### 東久留米市の新刊図書情報

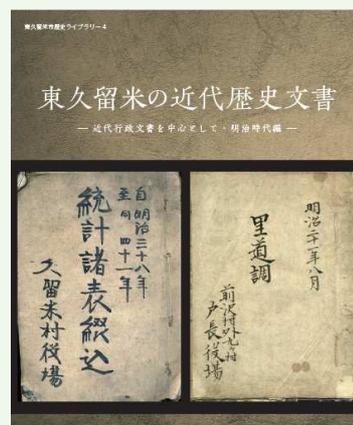
#### ●東久留米市歴史ライブラリー4

『東久留米の近代歴史文書  
—近代行政文書を中心として・明治時代編—』

2023年刊行

（2023年7月3日販売開始）

※本図書の概要については、  
右記のQRコードから、  
当市HPをご覧ください。



編集・発行

東久留米市郷土資料室（東久留米市教育委員会生涯学習課文化財係）

203-0033 東京都東久留米市滝山4-3-14 東久留米市わくわく健康プラザ内

電話 042-472-0051 無断転載はしないでください